
本当の春。

mizuki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本当の春。

【Zコード】

Z2280C

【作者名】

mizuki

【あらすじ】

両親が若くして他界し、人生のドン底に落ちた主人公、秋はある日、草原を見つけた。その草原を秋は気に入り、毎日通つた。そんなある日、とある3人組が

!!

春が来て

うつとおしい梅雨の季節になり

夏が来て

水着の後がまだ残る季節になり

秋が来て

冬が来て

また、春が来る。

どれだけ春が来ても

サクラが満開になつても

入学式になつても

僕の心の中は真冬だつた。

まだ、冬の寒さが残るゝ頃始め。

秋は草原で咲たちと元気に遊んでいた。

そう、秋と

咲

光

アキラ

優姫が出会った場所だ。

2年前

・

秋の家は父はエリートサラリーマンだったが、早くに他界。母も、元々心臓が悪く、父がいなくなつたショックで、父の後を追つようになくなつた。

親戚は居らず、秋はドン底におちた。元々明るい性格だが、今はすっかり暗くなつてしまつた。今では、友達もいない。

そんなある日、町外れをブラブラしていると、ある草原を見つけた。

「綺麗・・・」

秋はその草原を気に入り、何度も訪れた。ここに来ると、何もかも忘れられる・・・そう思つたからだ。

実際、忘れるとはできたものの、帰るときの足どりは重かつた。だんだん、だんだん、現実に戻つていくからだ。

「こつそ、あそこ元暮らそづか」

そう考えたが、バカらしいし、ホームレスになるのはいやだつたら、やめた。

秋は、そのうち学校も行かず、あの草原に通つた。

そんなある日、男2人、女2人の同じくらいの歳の子が来て、こう言つた。

「ねえ、遊ぼう！」

僕ははつとした。僕は遊ぶということを忘れていたんだ。
「友達」も「友情」も。そして、「現実」も

僕は、その言葉で自分を見直そうと思った。

周りは春でも、僕の心の中は、雪が積もっていた。
だが、この四人組が僕の心の雪を溶かしてくれた。

僕の心に本当の春が来たんだ。

今、言葉にはしていなこけど、心から感謝している。いつか、絶対
言おう。感謝のしるし

『あつがとつ』

を
・
・
・
。

(後書き)

皆さん、この小説を読んで、どう思いましたか？

友達は大切だと思いましたか？

現実をしつかり受け止めようと思いましたか？

周りを見渡してください。貴方を必要としてくれる方は沢山いらっしゃいます。困った時は、この小説を思い出してください。されば嬉しいです。

ここまで読んでくださって、ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2280c/>

本当の春。

2010年10月10日01時47分発行